

二〇二四年七月一三日

定例WEB句会みのる選

落ちてなほこよなく白し沙羅の花

わかば

睡蓮の陣さざ波に広がりぬ

せいじ

歩板へと迫り出す蓮の巻葉かな

なつき

萩叢のトンネル駆けて序破の風

澄子

本堂にじいさんバンド夏祭

なつき

パーゴラに斑を散らしたる若葉影

康子

蝉生れて東雲に翅乾きゆく

あひる

芝庭に撒水ホースとぐる巻く

せいじ

梅雨茸丸太ベンチに一と並び

あひる

苑愉し蛇の目を借りて日傘とす

かえる

老鶯の襖のごとく朗詠す

よう子

掬ぶ手にまろび輝く清水かな

むべ

四阿は網代天井風涼し

澄子

羅に透けて真白き腕見ゆる

かえる

背伸びして高きに結ぶ星の竹

むべ

幼の字平和と読めし笹飾り

康子

深山径足な取られそ蔦茂る

ぽんこ